

授業科目名 <英訳>	東洋史 I Oriental History I		担当者所属 職名・氏名	人文科学研究所 教授 石川 禎浩 人文科学研究所 准教授 村上 衛 人文科学研究所 特定助教 森川 裕貫			
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	歴史・文明(基礎)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義
開講年度・ 開講期	2017・前期	曜時限	火2	配当学年	全回生	対象学生	全学向
[授業の概要・目的]							
<p>近年、緊張していた日中関係はやや好転したものの、依然として対立は解消せず、日中両国民の相手国に対するイメージも悪化したままである。一方で、中国経済の発展にともなって日本企業にとって中国市場の重要性は増しているうえ、日本への中国人観光客も激増しており、日中が切っても切れない関係にあることは間違いない。本講義は、このような現状に密接に関係する、19世紀後半から20世紀後半までの日中関係を政治・社会・経済・文化の多様な側面から検討する。そして日中間の交流・対立や相違点・類似点についての歴史的理解を深めるようにしたい。</p>							
[到達目標]							
<p>19世紀後半から20世紀後半までの日中関係について、政治・社会・経済・文化面を中心に基礎的な知識を習得し、日中間の交流・対立や日本と中国の相違点・類似点について歴史的に理解できるようになる。</p>							
[授業計画と内容]							
<p>第1回 ガイダンス 第2回 日中の差違(村上) 第3回 明治維新と洋務運動(村上) 第4回 在華紡と中国紡(村上) 第5回 日中対立と中国経済(村上) 第6回 清末日本留学生の世界(森川) 第7回 中華民国と大正日本(森川) 第8回 蒋介石の日本観(森川) 第9回 中国の知識分子と日本の知識人(森川) 第10回 中国語と日本語が似ているのはなぜか(石川) 第11回 中国共産党の革命運動と日本との関係(石川) 第12回 日中戦争と戦後処理(石川) 第13回 日中国交回復への道のり(石川) 第14回 小テスト</p>							
[履修要件]							
特になし							
[成績評価の方法・観点及び達成度]							
小テスト(最終回に実施する。)							
[教科書]							
使用しない							
[参考書等]							
(参考書)							
吉澤誠一郎『シリーズ中国近現代史 清朝と近代世界』(岩波書店) ISBN:978-4-00-431249-9							
川島真『シリーズ中国近現代史 近代国家への模索』(岩波書店) ISBN:978-4-00-431250-5							
----- 東洋史 I (2)へ続く -----							

東洋史Ⅰ(2)

石川禎浩 『シリーズ中国近現代史 革命とナショナリズム』(岩波書店) ISBN:978-4-00-431251-2

久保亨 『シリーズ中国近現代史 社会主義への挑戦』(岩波書店) ISBN:978-4-00-431252-9

[授業外学習(予習・復習)等]

参考書などを読み、中国近代史についての基本的知識を身につけてから講義に臨むこと。

[その他(オフィスアワー等)]